

**令和4年度
第2回藤島地域振興懇談会
会議録(概要)**

期 日：令和4年11月24日(木)

場 所：藤島庁舎3階 大会議室

第2回藤島地域振興懇談会会議録（概要）

- 日 時 令和4年11月24日(木) 18:00～20:00
- 会 場 藤島庁舎3階 大会議室
- 出席委員（五十音順） 11名
池田玲子、井上佳奈子、上野隆一、大沼恒司、小池昌和、今野良和、
齋藤金廣、佐藤智信、高橋俊一、高山千代子、中田英幸
- 欠席委員 4名
伊藤公司、齋藤豪、齋藤直美、齋藤美由紀
- 市側出席職員
〈藤島庁舎〉 支所長 成田讓
総務企画課長 小林正雄
市民福祉課長 長谷川郁子
産業建設課長兼エコタウン室長 上野衛
総務企画課主査 後藤春雄
総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤優
総務企画課主査 村田喜栄
- オブザーバー 山形県立庄内農業高等学校 校長 坂井孝朗
- 傍聴者 1名
- 次 第
1. 開 会（小林正雄総務企画課長）
 2. あいさつ（今野良和会長）
 3. 報 告（成田讓藤島庁舎支所長）
藤島地域教育振興会議について
 - ・10/7 第1回 委員長・副委員長選任、藤島地域教育環境の現状と課題、
鶴岡型小中一貫教育の推進
 - ・11/17 第2回 事例研修（酒田市教育委員会、新庄市立萩野学園）
 4. 説 明 ・ 協 議
 - (1) 令和4年度藤島地域主要事業（経過） 資料1
 - (2) 令和5年度まちづくり未来事業予算要求について 資料2
 5. その他
 6. 閉 会

○説明・協議

(1) 令和4年度藤島地域主要事業（経過）

－ 説明 －

- ① 総務企画課長 小林正雄
- ② 市民福祉課長 長谷川郁子
- ③ 産業建設課長兼エコタウン室長 上野衛

(2) 令和5年度まちづくり未来事業予算要求について

－ 説明 － 総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤優

今野良和会長

担当の方から、令和4年度の藤島地域の主要事業と今までの経過について、また、新年度、令和5年度のまちづくり未来事業の予算要求等についての説明がございました。

それでは各委員からご発言をお願いいたします。

委員

二つ、発言しますが、一つ目は単純に質問です。

資料1の2ページ目、一番下の長沼・八栄島の公共交通導入事業についてですが、昨年と同じぐらいの実績という話でしたが、具体的に幾らのお金がかかって、何人を運んだのか教えてもらえますか。

齋藤総務企画課地域まちづくり企画調整主査

補助金の額としては令和3年度で300万円弱です。運んだ人数は累計で約600人となります。令和3年度は6月からスタートしておりますので、10ヶ月間の実績になります。

委員

補助金の額イコール経費ということですか。

齋藤総務企画課主査

そうです。乗った人は、バス料金並みの運賃を支払っておりますので、その運賃をまずタクシー会社からの請求にあてて、残りの分に補助金を出しています。

因みに東栄地区は15年ぐらい前から先行してデマンド交通を運営しているわけですが、東栄地区は利用者が多く、鶴岡市全体でもかなり優秀なデマンドタクシーになっており年間1,700人ぐらいに使われておりますので、そこに早く近づけることを目標にしております。スタートしたばかりの長沼・八栄島地区はまだ届いていないと、いう状況になって

おります。

委員

わかりました。とりあえず今の段階では費用対効果が良くないということですね。

齋藤総務企画課主査

今のところそうなります。

委員

もう一つ、これは方向性がおかしいと思いながら聞いていたのですが、産業建設課です。

産業建設課の事業は、ほとんどが農業関連事業となっています。これは、課の名前を変えた方がいいのではないかと、農業課とか、農業開発課とかに。何が言いたいのかというと、結局、商とか工が1個もない、1個もないのは幾らなんでもひどすぎるんじゃないですか。役所が商工事業を作りにくいというのは、感覚的にわかります。わかるけれども何もしないというのはあまりにもひどすぎると思います。少なくとも商工会にこういうことをやってほしいとか、検討してもらいたいので予算をつけるだとか、そういう配慮があってもいいのではないですか。これでは置き去り。それから、来年の予算にも一切盛られていないようですが、まだ間に合うと思うので何かやってください。

あんまり難しく考えなくてもいいですから、何か一つ商及び工に対する、気を使ってください。

今野会長

はい。何かお答えできますか。

その前に、以前同じ指摘を受けたわけですが、何か発言ありますか。

委員

以前、この懇談会でそういう話をしました。農業だけでなく、工業団地を造成して企業を呼んでくるとか、そういうことを頑張ってもらいたいというような話をしましたが、そういう内容が毎回出てきません。それから、自分の町内を考えてみてください。男の人は、40代50代の人がすごく多いと思いますが、高校卒業した女性は各町内会にいますか？ さっき今野会長も言っていましたが、人口減少という中で、やはり女性の働く場所が少ないのです。だから、企業の誘致が必要なのです。

もう一つ、文厚エリア未来プラン検討事業も中心市街地だけです。合併で鶴岡市になって藤島は一つなので、東栄地区も渡前地区も長沼地区も全部同じに考えてくださいと何回も言っているにもかかわらず、いまだに中心市街地だけを考えている。

もう一つ言えば、市長の公約では栄と渡前に防災多目的施設を整備すると重点政策に入

れているにもかかわらず、その内容がどこにも出てこない。もう一度いいますが、市長公約の重点政策にありましたが、やる気はあるんですか。

今野会長

はい。

支所長、何かお答えできますか。

成田支所長

まず、渡前地区地域活動センターの体育館についてですけども、修繕については未来事業の小規模修繕枠という予算を使って修繕していくと考えております。ただ、議会答弁等では補助事業を活用した建て替えを検討していきたいと申し上げておりましたが、そちらの方は進んでいないところです。こちらは引き続き、教育委員会や関係所管課とも調整しながら、解決策を見つけていきたいと考えております。

それから、中心市街地ばかりというご指摘ですが、文厚エリアというのは中学校の建て替えを中心としており、こういう書き方をせざるを得ないところでありまして、決して郊外地がそのままいいとは我々も思っておりません。今回、コンサル等に委託という予算要求をしておりますが、各地区のインフラ整備あるいは活性化についてもお話しできるように考えていきたいと思っております。

また、委員からは、耳が痛いご指摘がございました。何とか、Hisu 花イルミネーションや、庄農うどん大作戦といった人の動きが出ている新たな事業などで、地元の商工業者さんが活躍できるような仕組みを考えていきたいと思っております。特に Hisu 花イルミネーションは、5年目になるので、経済的な波及効果を数字で表す努力をしようと考えております。

委員

さっき言ったことの繰り返しになりますが、やはり藤島の商店街も取り残されています。だからといって、何もしなくてもいいということはないです。もちろん、藤島地域の中で農業が一番というのは確かによくわかります。しかし、今経済を支えている産業は、やはり製造業です。藤島でもスタンレーが飛び抜けていますが、製造業の経済への貢献は大きいです。

そういう部分に全く何もしないで、農業だけでは駄目なんです。役所自体が「どこかでやってくればいいや」みたいな考えでは駄目です。これでは前に進みません。

来年の方向性を少し見直してください。

今野会長

今、委員から、商工関係につながる未来事業が何もないというお話しでした。藤島地域の商工業の振興策として、取り組まなければならないことがあるはずですので、ぜひ商工振興に繋がるような予算を庁舎として取ってもらえるようにお願いします。農業のまち藤島とい

うのは充分わかりますが、偏りすぎている部分があるように思いますので、商工会と連携をとりながら、問題解決に向けて取り組んでください。

その他、先日の Hisu 花のイルミネーションの点灯式は悪天候で大変でした。その中でも、それなりのお客さんが来て盛り上がったという話を聞いておりますので、これをいかにして、地域の一つの観光、或いは産業振興に結びつけていくかということが大事だと思います。

そういう意味で、何かこれについてありませんか。この間の日本一の米コンテストのことも含めてコメントをお願いします。

委員

先日は、鶴岡ごはん日本一というお米のコンテストにご協力いただきましてありがとうございました。観光協会として取り組ませていただいたわけですが、初年度としては、まずまずの結果が出せたと思っています。このコンテストは、おいしいお米を決めることが目的ではありません。事業を通じて、若手の農家がやる気を出す、農業に本気で取り組む、そういうきっかけになればとスタートした事業です。今回エントリーは 30 名ありましたが、この方々からは、大変有意義だったとの感想をいただいております。改めて、皆様のご協力に感謝申し上げます。

また、Hisu 花の点灯式も、当日、大変な天気でしたけれども、うちのスタッフも何人か、現場に行って、楽しませていただきました。何で Hisu 花は毎回天気が悪いのか、なんともしょうがないことではありますが、イルミネーションが 5 年目になって、地域にとって経済効果がどのくらいまで出ているのかは、本当に数字として見てみたいと思ったところです。ただ電気代を浪費しているだけなのか、それとも、本当に地域のためになっているのか、人を呼ぶという部分では、とてもいい取り組みではありますけれども、実際どのくらいのお金として見えてくるのかという検証を早急にしていただきたいなと思ったところです。

今野会長

その他の委員の方で、今の経過、また新年度の取り組みについてご意見等ございましたらお願いします。

委員

農業、それから商工業、いろんな分野の人たちが一緒になって生活しているのが地域であり藤島であると思うので、偏らない目の配り方、取り上げ方というのは大事な視点ではないかなと私も思いました。

それから Hisu 花についてですが、毎年いろんな工夫が凝らされていて、見る人を楽しませてくれる装飾ですごく綺麗だなと思います。私たちも Hisu 花の点灯式にお呼びいただいて、参加させていただきまして、大変うれしく思いましたが、天候が悪いなりの進行方法があるのではないかと感じました。参加者も雨の中でしたけども見ていただきましたし、大

変喜んでおりました。あと 1 月 9 日で終わるのは惜しいと思っています。でもああいう誇れるものが、藤島にあるというのは、すごく力強いことと思います。ただ、経済効果と言われると、お店もそんなにないし、夜なので、その辺は、もう少し考えていくことも必要と思います。たとえば 1 月 9 日までしかないの、何曜日の何時に何々が来るとか。キッチンカーもありますし、宣伝の中にそういうものを計画的に入れれば盛り上がると思いますし、地元の商店ももちろんですけども、そのような取り上げ方もいいのではないかと思います。

地元の商店も、休みが増えているお店もあり、買物に行こうと思っても今日も明日も休みだということもあるので、そのへんが残念だなと感じているところです。

それから夏祭りも、せっかく 3 年ぶりにやれると思って楽しみにして、女性団体でも練習をして準備していましたが、これも天気のため縮小になってしまい残念でした。

何事も地域で生活している人が生き生きと楽しく生活していくことが活性化につながると思うし、そういう風に暮らせれば若い人も増えると思います。せめてそうしていかないとだんだんしぼんで寂しいと思うので、我々自体も生き生きと楽しく暮らしていける、そういう支援を庁舎の未来事業で考えてもらえればうれしいなと思います。

委員

秋まつりについて私の感じたことです。秋まつりのごはんコンクールの時の審査員は一般の人で、農協関係者は 1 人も審査員には入っていませんでした。農業のことなのに、農協の関係者が、審査員とかコンクールの方にタッチしないで、野菜を売ったり、いも煮を盛ったりしてるわけです。それを見てとても違和感を感じたのです。あげくに農協職員はグラウンドゴルフを担当したりして、もう少し農業の部分にかかわってもいいのではないかと思います。商業、工業というのであれば、そこにその方たちも加えて頂いてみんなで行ったらいかがでしょうか。

昔からの経過もあるのかもしれませんが、元気食楽部についても、個人の取り組みだった気もしますが、なぜ庁舎でバックアップしているか疑問を持ちました。

今野会長

その疑問に教えてください。

成田支所長

秋まつりについては、もともと J A 藤島支所の収穫感謝祭として開催されていたものが、同時期に町でやっていた秋まつりと一緒に開催ということになり、J A ではグラウンドゴルフを担当することになった経緯であり、J A の主催事業となりました。

また、コンテストの審査員について、今回は公募をさせていただきました。たまたま J A の職員の方がいなかったのだろうと思いますけれども、一般の農家の方では、何人か参加されていたようです。

それから、元気食楽部ですが、これは個人ではなく広く会員を募集しています。食楽部の目的としては個人農家ではやりにくいことを、例えばコストがかかり踏み出せないような実証であったり、研修であったりということを、市で支援していく事業になりますのでご理解ください。

今野会長

秋まつりの関係で、農協や観光協会の関係もありますので、発言をお願いします。

委員

秋まつりは、成り立ちがあって、藤島町でやっていた秋祭りと J A でやっていた収穫感謝祭を一緒にやろうということで、今の形になったと聞いています。

J A では農産物の販売やグラウンドゴルフの開催などを持ち寄られ、鶴岡市と観光協会は食の祭典といったものをやられていたようです。やらされているということではなく、お互いできることを持ち寄った集合体が今の形になったと思います。

お米のコンテストに関しては、ゆくゆくは全国大会まで持っていきたいという思いがあります。だいたい5年後くらいには実現したいです。その際には、やはり市民の方が食べて美味しかったというお米が1位になる形が一番わかりやすいですし、市民の方が参加しているほうがお祭りとしては、盛り上がりにつながるという思いでやっています。

一次審査は、県農業技術普及課の食味計という機械を使ってベスト16を決めます。ベスト16を二次審査で、(日本料理研究会荘内支部)鶴岡庖業会という和食のプロの方たちと各旅館の料理長に食べていただいて、ベスト8に絞りました。そして、実際に会場に来ていただいた方、これは観光協会のホームページで一般公募したのですが、その方たちから、1人2票、美味しかったお米に投票していただいて、決定していくというものですので、決して農協職員を線引きすることはありません。たがわ農協からは後援という形でご協力いただいていますし、実行委員会にも、農協の方々からメンバーとして入っていただいております。

委員

私もわからないし、農協職員に聞いてもわからないということだったので聞いてみました。

委員

まだ不明な点があれば、説明させていただきますのでよろしくをお願いします。

委員

秋まつりに関しては、J A 藤島支所共催で、グラウンドゴルフとか藁工芸を農協が担当

しており、米コンテストに関しては、農協としては実行委員として入っています。若手農家の励みになるということが一番のねらいだと思います。来年度もそこは変わりませんので、ぜひ若手農家から頑張っていたきたいなと感じたところです。

先ほど来、農業振興ということで、JAにも市からは、いろいろ予算対応で支援していただいておりますが大変ありがたいと思っています。

また元気食楽部と認定農業者等では、先ほど説明にあったとおり、12月16日に講演会があるということで、楽しみにして参加希望しております。このような技術向上のための講習会を開催することは、スマート農業等も含め、勉強になると感じています。

一つ気になったのですが、4番の農の魅力拡大事業の④の鶴岡産米イルミネーションPR事業で、つや姫・雪若丸という説明でしたが、JAはスリーブブランドということで「はえぬき」も含めてPRしておりますので、行政も足並みをそろえ考慮していただければと思ったところです。

委員

藤島地域に住んでいる赤ちゃんも含め、全員が幸せに感じられる地域にするにはどうしたらいいのかということ、行政の方と私たち市民がいろいろな意見交換をしていくことが大事だと思うのです。やはり一つ一つの事業が単独で行われているのではなくて、横の繋がりがあってうまくからみあっているのだと感じます。地域づくりというのは、すごく奥深いことだなと思いました。

ひとつだけ、文厚エリア未来プランで、まず新たに予算要求して頂きすごくよかったと思いました。中心市街地とはなっていますが、コンサル委託の際に、渡前とか東栄とかも含め、そこをどうするかもいっしょにプロの方に考えていただければ、地域全体を変えられると思いました。

委員

やはりHisu花のことです。どのようにこれを活用して、費用対効果も含めて検証していかなければいけないと思いますし、食べるのが一番簡単に利益が出せるので、その相乗効果に乗ればいいと思います。地元の飲食店も情報発信をしながら、Hisu花を利用して地域に貢献できるような、例えば、庄農うどんが毎日食べられるとか、キッチンカーのバリエーションを増やすとかでもいいので、リピーターや遠くからも人を呼べる仕掛けを作っていないといけないと思っています。特に小さいお子さんは、親と一緒に何回も足を運んでくれると思うので、何かお金を落としていただけるような仕組みづくりを行って、その収益を幾らかでも、次の事業に結びつけられればいいと思いました。

今野会長

私も飲食店をやっていますが、今はコロナの関係で、夜、なかなか人が動かないというの

が正直なところでは、イルミネーションを点けてる期間は、お昼はけっこう賑わうのに、夜はなかなか厳しいという状況です。工夫が足りないと今、委員から言われましたので、商工会や庁舎と連携しながら考えていかなければならない課題だと思います。

委員

3番の暮らしやすい藤島を実感できる生活基盤ということで、14番、15番、長沼地区八栄島地区公共交通、それから藤島地域全体の公共交通再編事業です。

先ほど委員の方からもご質問ありましたが、私が長沼・八栄島地区デマンド交通運営協議会の会長をしておりますので、実際、なかなか、周知、広がりはまだまだかなと思います。そういう意味では、いろいろ利用促進を図るための方策を少しずつはやっているのですが、実際、まだ自分が車を運転できる感覚のある人は、なかなかデマンドの方には向いてくれないという状況です。

ただ、今、使ってる人は本当に有難いという意見のようです。この点はよかったのですが、目標としている利用数の半分程度に留まっているのでなんとかする必要があります。ぼっぼの湯の利用の促進も兼ね、デマンド交通を利用したらぼっぼの湯が安く利用できるプランを作って、利用促進なども図ったりしています。それから今日の山新に、庄内交通が10月から市内循環バスの便数を増やしたという記事が載っていました。10月から始めてわずか1か月でお客さんは1.5倍になったと驚きの数字が出ていましたが、利便性を良くすればお客さんも増えるということで、発想の転換と社長さんはおっしゃっていましたが、費用対効果で、利益を上げられないから便数をどんどん減らしてきたこれまでのやり方が本当によかったのかということをお聞きさせられました。藤島地域全体の公共交通再編事業もいろいろな可能性があると思いますので、引き続きこの事業を進めていきたいと思っています。

今野会長

予定時間を経過しておりますが、どうしても発言したいという方はおりますか。

委員

この懇談会のあり方ですが、説明を受けて、我々が質問してそれにお答えいただくというのが通常ですが、次回からは今回の要望に対して報告の時間をとっていただきたいと思っています。言いつ放しで終わってしまったのは、すごくもったいないので、ぜひ実現して頂ければありがたいです。

委員

それがいいです。

要するに、今回出たものに対してどのような対策をとって、今後に臨むか。これはやる

べきだと思います。大変ですが、この会が本当にこの地域行政の中に生きてくるやり方でもあると思うので、次回からぜひお願いします。

今野会長

今、お話があったとおり、これまで懇談会での要望が一方通行で、それに対する考え方が一向に出てこないということです。駄目なら駄目でいいですし、要望に対して「このようにしています」、「考えています」というような報告を次回の懇談会でしていただくことが大切だと思いますのでよろしくお願いします。

せっかく庄農の校長先生が来ておりますので、藤島地域にある庄内農業高校を何とか存続させ、発展させていきたいとの気持ちから地域連携事業をやっているわけですが、このことについてご意見等頂ければありがたいです。

○坂井庄内農業高等学校校長

これまでいろいろなご協議をいただきながら進めて参りましたがけれども、この3年ほどコロナ禍で、対面を含めて学校の方においでいただくことがなかなかできないので、本校でやっていることが地域のみなさんに見えない状況があったかと思います。

資料にも挙げていただいておりますけれども、生徒の指導にも連携いただきながら、一つの成果として全国農業クラブの大会で、山形県大会では3部門中2部門を制覇、東北大会でも1部門を制覇して、全国大会に出場した事は、これまで庄内農業高校の成果として無かったことでしたので、そういった形で、皆さんの連携・協力がようやく成果として現れてきたと思っております。

その中身ですが、庄農うどんの取り組みでは、地域内の飲食店の方、今年度は9店舗にご協力いただきながら、今年度で4回目ですが、年々売上げも上がっており、先ほど来の商工業の経済効果の部分で貢献もできたのかなと感じているところです。

今年の学校のテーマとして、ウィズコロナということで、可能な限りいろいろな教育活動を、コロナの対策をしながらやっているところでありまして、今回、文化祭も実施しております。残念ながら一般の方をフリーで入れるまでの状況とはなっておりませんので、保護者に限定して見ていただいております。いろいろメディアでも取り上げていただいて、そういった媒体を使って、皆さんに連携のご協力や成果をご提示することができたものと思っております。本当にこの連携事業については、金銭的な部分も含めて、大変感謝しているところがございます。今後ともぜひよろしくお願いいたしますと思っております。

本校の存続云々ということもありましたが、県とも年度当初より様々なやりとりをし、やはり120年以上続いている学校であり、農業に関して、いろんな活動や取り組みが、地域と連携して成果が出てきているということを伝えているところであり、今後とも、ご協力をお願いしたいと思っております。ありがとうございます。

今野会長

はい、ありがとうございました。

以上をもって、協議は終了したいと思います。今回出た質問、或いはお願い事がたくさんあったわけですが、それに対して、次回の懇談会の中で、庁舎の検討結果を報告してほしいという意見が出ましたが、それについて支所長より最後に答えを頂いて終わりたいと思います。

成田支所長

貴重なご意見ありがとうございました。前向きな報告ができるように取り組んでいきたいと思います。しかしながら簡単に回答が出て、すぐ解決できるものばかりではないので、そこはご理解頂きたいと思います。真摯に取り組んで参ります。

最後になりますが、今年も元気にイルミネーションがスタートし、冬の藤島が始まりました。コロナで疲弊して元気がない世の中ですが、藤島にはこんな元気な市民主体の取り組みがあるということを示せるのも嬉しいことだと思っています。この懇談会をもっと実のあるものにしていくことを目指すとともに、冬の藤島を皆さんで楽しみながら、地域を盛り上げていければと思います。

今野会長

以上で協議を終了したいと思います。